

## ○今日の活動の目的

私たちは普段、人の話を「聞いて」学ぶことが多いものです。小学校、中学校、高校、大学とほとんどの教育機関で「聞いて学ぶこと」が中心になっています。最近はこれに加えて、学習者同士が話し合うなど学習者を中心に据えた学習活動をデザインすることが大事だという指摘がなされるようになって来ましたが、では「話し合う」ための素材を仕入れる活動を「聞いて」行うのと、「読んで」行うのではどんな違いがあるでしょうか？今日は、実際の講義ビデオを材料に、聞いて学ぶことと読んで学ぶことの特徴や意味について考えていただきます。皆様が、自分で自分の学びをデザインする際、参考になる体験をして頂ければ、と考えています。

## ○今日の活動デザイン

今日の活動は、学び方について考えて頂きますので、

- I 何かを実際学ぶ という活動と
- II そこでの学び方について考える という活動の、二重構造になっています。

やり方としては、

- A まずIIについて今の自分の考えを確かめて
- B それからIをやってみて
- A Bを振り返ってもう一度IIについて考えをまとめてみる

という A-B-A型をしています。

このBの部分で今日学んで頂くのは、東京大学の1, 2年生向けの講義として実施された学術俯瞰講義<sup>1</sup>「物質の科学 –その起源から応用まで–」の「物質を作り使う (小宮山宏)」と、学び方は、ジグソー法を使います。ジグソー法は、

- ① 学ぶ対象をいくつかの部品に分け、グループにわかれてその内の一つの部品を担当し、他のグループの人に説明できるよう準備するエキスパート活動
- ② 各グループから一人ずつ集めて新しいグループを作り、部品の知識を合わせて問いへの答えを出すジグソー活動
- ③ジグソー活動でわかってきたことを発表、交換し合うクロストーク活動

の3段階の活動で進める学習者中心型の学習方法です。この①の部分「聞いて」やってみたらどうなるか、体験して頂いた後、「読む」と「聞く」のとを対比して考えてみて頂けるよう工夫しています。皆様にどんな発見がありますでしょうか？今日もゆっくりお付き合いいただきますように。

---

<sup>1</sup>学術俯瞰講義」は学部1, 2年生を対象とした学問領域の全体像を俯瞰する講義として、2005年度にスタートしました。全体の大テーマをベースに関連のある領域をそれぞれ専門の担当教官が講義を行います。